

特集

安全で安心な 無痛分娩を極める

企画者のことば

堤 治^{*}，久須美真紀^{*}

企画者(堤)が産科研修を開始した昭和50年代初頭は、無痛分娩を積極的に実施する施設は少なかった。都立築地産院において堀口貞夫部長(当時)から指導を受ける機会を得て、普及啓発の必要性を感じたが、勤務していた東京大学では広く実施するには至らなかった。現在勤務する山王病院では、無痛分娩はルーチン化し、企画者が担当する分娩のほとんどは無痛分娩である。ことほど左様で、時代の変遷とともに、無痛分娩に対する患者を含めた社会の認識は変化し、無痛分娩に対する需要は増加していると思われる。一方では、無痛分娩実施時に起きたトラブルがメディアなどでも取り上げられ、必要以上にリスクが強調されていると感じることもある。

本特集では、日頃より無痛分娩に携わる産科のエキスパートと無痛分娩を積極的に推進される麻酔科の先生に安全で安心な無痛分娩を実施するためのノウハウを開陳いただき、無痛分娩の健全な普及に資することを目標とした。

主な内容を以下に概略する。無痛麻酔の開始

時期と誘発方法やその実際は、使用する薬剤の内容も含めて具体的に提示いただいた。安全に実施するために必要な、無痛分娩時のモニター、特にCTGの注意点や、必要が生じた場合の急速遂娩法や救急対応、無痛分娩後の注意点を現場で対応する諸先生から解説いただいた。無痛分娩普及度の国際比較も海外経験のある麻酔科専門医からお聞きする。無痛分娩を実施する施設の備えるべき要件の具体的な提示に引き続き、無痛分娩を実施する各種施設の実施の実際を、大学病院、総合周産期母子医療センター、24時間体制をとる病院、産科クリニックに分けて具体的に開陳いただく。

本企画が日本における無痛分娩の安全で安心な普及に役立つことを祈念する。なお、日本産科麻酔学会ホームページに、一般向け無痛分娩Q & A(http://www.jsdap.com/pompier_painless.html)があり、患者への説明やインフォームド・コンセントにも参考になると思われるので付記させていただく。

^{*} Osamu Tsutsumi, Maki Kusumi 医療法人財団順和会山王病院